

紀州日蓮教団の展開

植 田 観 龍

はじめに

紀伊の国とは南海道の一国で現在の和歌山県全域、及び三重県南部の一部を指す。

「木国」とも呼ばれたように、そのほとんどは山地で紀ノ川に代表される河川の流域は小規模ながら平野があり、古くから豊かな歴史を作り出した。本州最南端の潮ノ岬があり、太平洋の黒潮に洗われる海岸線が長いのも特徴をなしている。紀伊の国東南部は熊野三山があり、熊野詣で有名である。

この熊野権現、また高野山は日本宗教史上に占める役割は大きなものがあり、さらに粉河寺・根来寺・道成寺など現在に続いている。

源頼朝は諸国に守護・地頭をおいたが、紀伊国の守護は和泉国守護をも兼任した佐原十郎左衛門連義である。

その後、承元元年（一二〇七）に院の熊野詣の駄家雑用を負担したので、重要なことがない限り守護を置かないことにした。しかし、承久の乱後は守護が置かれるようになった。南北朝時代になり、紀伊国も動乱の渦中に入り、建武年間（一三三四～三八）には北朝側で畠山国清が、さらに細川宗茂・山名義理などが守護となり、南朝も浅野覚心・忠成・保田宗兼を守護として南北両朝ともに勢力の拡大をはかった。明徳の乱で山名義理は大内義弘に破られ、義弘が守護となったが、その後義弘も応永の乱に敗死し、畠山基国が守護に任命され、畠山氏が守護職をついだ。しかし国内には南朝を支持する豪族もあり、守護の命令は徹底しなかった。天正十三年（一五八五）羽柴秀吉は有力な軍事力をもっていた根来寺を攻撃し、さらに太田城の水攻で紀伊国の主要戦鬭力を支配し、熊野にもその力が及んだ。紀伊国を平定した秀吉は和歌

山吹上峰を城地と定め若山城を弟の秀長に与えた。秀長はすでに大和を領有し、郡山城にいたために、家臣の桑山重晴を派遣した。

慶長五年（一六〇〇）関ヶ原の戦いの後に浅野幸長が和歌山城に入り、浅野左衛門が田辺城に、浅野右近太夫が新宮城に配置され、和歌山藩の支配体制が整ったのである。

元和五年（一六一九）徳川家康の十男頼宣が和歌山藩に封ぜられ、御三家の一つとなり以後、江戸幕府との関係が深くなった。第五代藩主吉宗は藩政改革を成功させ第八代徳川将軍に迎えられるや紀州時代の経験を生かし享保の改革を実施した。

外様大名の浅野氏にかわって、御三家徳川氏が藩主となったのは和歌山藩にとってもっとも大きな政治的変化であった。

江戸に近い駿河国駿府城で五十万石を領有していた徳川頼宣を本州最南端の紀州に転封させたのは近畿地方を幕府で抑えるためであり、京都の朝廷や四国地方、大坂から江戸への海上交通、熊野山林等々の重要な問題があったからである。

前回は「紀州地方における日蓮教団の展開¹⁾」と題し

て紀州地方で最も創立の早かった妙台寺・養源寺の起源をたずねたところ日像流罪の地である獅子ヶ背より始まり大覚妙実経廻によるものと確認できた。

そこで本稿では紀州日蓮教団の全体をうかがってみたい。

一、紀州日蓮教団の概要

では今までに先学の研究としてどのようなものがあったのだろうか。

従来の紀州地方における日蓮教団の研究は、塩野日泰著『感応寺史話』（昭和三十六年八月十六日感応寺発行）、中井亨頂編『紀州日蓮宗風土記』（昭和四十四年正住寺発行）が挙げられる。

『感応寺史話』は感応寺の沿革を論じたもので、同寺に所蔵される『諸寺院由緒書』・『感応寺縁由』・『紀州法華諸寺法度』・『常住山永代規則』等の古文書を紹介し、近世紀州日蓮教団の動向を知る上で重要な文書が紹介されている。

『紀州日蓮宗風土記』は日蓮高野山遊学をはじめとして、中世から近現代に及ぶ紀州日蓮教団の展開が全般的に論じられている。

五十ヶ寺余りに及ぶ紀州日蓮宗寺院について古文書、古記録、石碑などを精査し、各寺院の成立の展開を論じたものである。

『市町村区分 全国寺院大鑑』平成三年十月二十日

全国寺院大鑑編集によると、現在和歌山県には次表に挙げる寺院が存在する。その中で日蓮宗寺院をあげると四十九ヶ寺、本門佛立宗が六ヶ寺、法華宗真門流が一ヶ寺、法華宗本門流が一ヶ寺、法華宗陣門流が一ヶ寺、日蓮正宗が五ヶ寺存在していることが確認できた。とりわけ高野山真言宗が三二二ヶ寺と高野山金剛峯寺の影響が大きい。また次いで浄土真宗本願寺派が二八二ヶ寺と和歌山県に占める割合は大きいことが確認できる。

【表1】

宗 派	寺院数	宗 派	寺院数	宗 派	寺院数
天台宗	三五	真言宗国分寺派	一	臨済宗東福寺派	一四
和宗	一	光明真言宗	一	曹洞宗	七一
妙見宗	三	明算真言宗	二	黄檗宗	四
粉河観音宗	五	救世観音宗	一五	日蓮宗	四九
高野山真言宗	三三二	浄土宗	一九八	日蓮正宗	五
真言宗醍醐派	一一	西山浄土宗	一五八	法華宗本門流	一
真言宗東寺派	一四	浄土真宗本願寺派	二八二	法華宗陣門流	一
真言宗山海派	九六	真宗大谷派	二〇	法華宗真門流	一
真言宗御室派	二六	真宗高田派	一	大乘教	二
真言宗大覚寺派	一	真宗興正派	四	本門佛立宗	六
真言宗豊山派	四	時宗	二	真言律宗	三
新義真言宗	四二	臨済宗妙心寺派	一六一	法相宗	二
		合計	一五六四		

また日蓮宗寺院についてあげると次表のようになる。

【表2】

	寺号	創立	西暦	所 在	開 山	旧本寺名	備 考
1	妙台寺	観応2	1351	海南市多田	大覚妙実	京都妙覚寺	
2	養源寺	永和2	1376	有田郡広川町	朗妙	京都妙覚寺	
3	正住寺	文明12	1408	和歌山市東長町	真如院日住	京都妙覚寺	真言宗の廃寺を再興
4	本光寺	天正19	1591	和歌山市寺町	実成院日典	京都妙覚寺	
5	本久寺	慶長年間	1596 5	和歌山市島崎町	本学院日玄	和歌山感応寺	二世本学院日方により広瀬より移転
6	本正寺	慶長11	1606	田辺市新町	善住院日詮	京都妙覚寺	
7	妙法寺	慶長12	1607	和歌山市寺町	仏性院日栄	中山法華経寺	和佐ノ荘より移転
8	蓮心寺	慶長14	1609	和歌山市小松原	良応院日産	玉沢妙法華寺	駿河より移転
9	法紹寺	元和年間	1615	和歌山市神前	仁慈院日理	大野本遠寺	延宝8年より報恩寺 宇須村より移転
10	本覚寺	元和5	1619	和歌山市数寄屋町	大縁阿闍梨日因	北山本門寺	駿府より車坂に移り後 現地に移転
11	感応寺	元和6	1620	和歌山市鷹匠町	正覚院日陽	身延久遠寺	駿州真言宗の廃寺、瀧泉寺を再興し後移転
12	隆昌寺	元和6	1620	那賀郡貴志川町	常教院日律	和歌山感応寺	和歌山新町より移転
13	淨心寺	元和9	1623	和歌山市宇須	心性院日遠	身延久遠寺	延享・天明の末寺帳・紀伊統風土記には大野本遠寺、日蓮宗大鑑には報恩寺と記載
14	久成寺	元和9	1623	和歌山市吹屋町	宝樹院日僚	洛陽本能寺	法華宗陣門流 車坂より移転
15	了法寺	元和9	1623	那賀郡貴志川町	興善院日為		寛文6年より天台宗に改宗
16	正福寺	寛永年間	1624 5	那賀郡曾屋	圓成院日應	大野本遠寺	寺院大鑑には報恩寺
17	宣経寺	寛永5	1628	和歌山市上六軒町	円雄院日格	蓮心寺	
18	蓮華寺	寛永13	1636	海草郡上町	安如院日義	養珠寺	真言宗根来寺の末寺が天正の兵火により焼失、後再興
19	誠証寺	寛永15	1638	那賀郡根来	圓成院日應	大野本遠寺	寺院大鑑には報恩寺
20	竜光寺	寛永15	1638	海草郡上町	慈眼院日眼	和歌山感応寺	
21	一乗院	正保年間	1644	和歌山市鷹匠町	一乗院妙心尼	和歌山感応寺	

44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	
本善寺	神力結社	瑞雲寺	妙光寺	妙康寺	妙見寺	立正寺	妙瑞寺	妙石寺	遍照寺	安樂寺	妙宣寺	本行院	応供寺	本恵寺	本広寺	報恩寺	法華寺	日眼寺	海禪院	養珠寺	玄英寺	蓮經寺	寺号
昭和21	昭和17	昭和11	昭和9	昭和5	昭和3	昭和2	昭和初期	明治45	天明8	享保11	正徳2	正徳年間	元禄14	天和3	延宝6	延宝2	寛文8年	寛文2	承応2	承応2	慶安3	正保年間	創立
1945	1942	1935	1934	1929	1927	1926	1925	1912	1788	1726	1712	1701	1688	1683	1679	1676	1668	1662	1653	1653	1651	1644	西暦
海南市日方	海草郡美里町	那賀郡打田町	西牟婁郡串本町	御坊市蘭	橋本市橋本	海南市別所	和歌山市北島	海草郡下津町	和歌山市屋形町	和歌山市中ノ島	和歌山市新堀東	和歌山市鷹匠町	和歌山市相阪	和歌山市直川	新宮市新宮	和歌山市真砂町	那賀郡北山	那賀郡長山村	和歌山市和歌浦	和歌山市和歌浦	那賀郡貴志川町	那賀郡根来	所在
小滝竜瑞				竜眺院日重		亨賢院日全	中嶋妙瑞尼	久遠院日寿	貞寿院日実尼	妙道院日行	稱知院日禪	本行院日由	日順	正考院日忠	正考院日忠	日順	慈眼院日眼	慈眼院日眼	中正院日護	中正院日護	興善院日為	觀明院日存	開山
									蓮心寺	報恩寺	養珠寺	和歌山感応寺	報恩寺	身延久遠寺	身延久遠寺		養珠寺		養珠寺	身延久遠寺		養珠寺	旧本寺名
											粉河より移転					本山 吹上岡山西ノ麓より移転	旧真言宗興善寺高幡山山上より移転	寛文6年天台宗に改宗			寛文6年天台宗に改宗		備考

63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	
真福寺	宝相寺	福生寺	妙海寺	大照寺	妙経寺	白浜教会	久遠寺	清恭寺	清声寺	一乗寺	妙宣寺	太平寺	経王寺	白光寺	忍徳寺	行者寺	妙覚寺	信行寺	寺号
													昭和49	昭和31	昭和30	昭和27	昭和26	昭和23	創立
													1974	1956	1955	1951	1950	1948	西暦
新宮市丸山	田辺市下万呂	有田市糸我町西	和歌山市鳴神	和歌山市紀三井寺	日高郡美浜町	西牟婁郡白浜町	東牟婁郡那智勝浦町	橋本市橋谷宮ノ前	新宮市阿須賀	和歌山市金竜寺町	伊都郡かつらぎ町	有田市箕島	西牟婁郡白浜町	西牟婁郡白浜町	那賀郡	和歌山市直川	海南市船尾	和歌山市杭ノ背	所 在
																亨陽院日寿	観明院日光	一乗院日運	開 山
																			旧本寺名
日蓮正宗	日蓮正宗	日蓮正宗	日蓮正宗	日蓮正宗	本門佛立宗	本門佛立宗	本門佛立宗	本門佛立宗	本門佛立宗	本門佛立宗	法華宗真門流	法華宗本門流							備 考

こうしてみると京都妙覚寺の末寺が多く、創立に関しては中世が妙台寺・養源寺・正住寺の三ヶ寺確認できる。地域的分布についてみれば和歌山市が二十七ヶ寺・海南市が四ヶ寺・海草郡が四ヶ寺・那賀郡が十ヶ寺・橋本市が二ヶ寺・有田郡が一ヶ寺・有田市が二ヶ寺・田辺市が二ヶ寺・伊都郡が一ヶ寺・日高郡が一ヶ寺・西牟婁郡が四ヶ寺・東牟婁郡が一ヶ寺・御坊市が一ヶ寺・新宮市が一ヶ寺と確認できる。近世は本光寺から遍照寺までの三十二ヶ寺確認できる。

二、各寺院の移転

和歌山県下宗門寺院の大半が城下に存在しているのを見て、徳川家と特別の因縁が深かった事が推察される。次に挙げる寺院について考察してみたい。

正住寺は

東長町にあり昔は真言宗なりしは廃類に及しを文明年中妙覚寺十三世真如院日住聖人再興して法華寺とせり因て日住を開山とす⁽²⁾

と記されている。

本久寺は

村中にあり開山は土佐の僧日玄慶長中始て廣瀬に僧

堂を結び法華經一萬部読誦の大願を發す 瑤林夫人大檀那として其願を遂しめらる又所持の祖師ノ像を寄附せらる第二世日方寺を今の地に移す⁽³⁾と記されており、瑤林夫人が関係していることが確認できる。

妙法寺は

中山の僧、慶長年中創立、元和三年和佐の莊より現地に移す

と記されている。⁽⁴⁾

蓮心寺は

妙法寺の南にあり慶長十四年 養珠夫人南龍公の眞母駿府にて創建本山十四世日産聖人を開祖とす善曜山蓮心寺と号するは夫人の法号蓮花院妙紹日心夫人の祖父の法号 善久光曜とに取なり元和五年 南龍公の命を以て從て此地に移る同七年永代聖人寺に任せらる慶安元年 養珠夫人逆襲位牌を安置せらる⁽⁵⁾

法紹寺は

北村の良山足にあり元和の頃忍穂弥五右衛門入道道榮開基す初道家出家の望ありて至仕して宇須村に一字の建立し後此地に移る 南龍公小堂を作らしめ本

尊觀音像並に仏具等を賜い寺地一石九升の所を免除せらる 公の御実母 養珠院妙紹日心尊尼の法号の文字を采て山号寺号とす旧は甲州本遠寺の末なり延宝八年より報恩寺に属す⁶⁾

と記されている。共に養珠院と関係の深い事が確認できる。

本覚寺は

数寄屋町にあり此寺旧駿府にあり開基は大縁阿闍梨日因上人元和五年入国の時従ひて此地に移る初め地を車坂に賜ふ後今の地に移る⁷⁾

と記されている。

感応寺は

当寺往古は駿州富士山の麓にありて瀧泉寺と号す真言の大伽藍にして大衆常に一百余僧あり日蓮聖人身延山に在りて化導の時大衆等真言を破斥するを怒り上人と弁鋒を交え大衆感服す 因って改宗して法華となる上人の上足日向上人を以て瀧泉寺の主たらしむ鎌倉騒乱に遇て廃頽することを百余歳明応年中岩越刑部大輔其地を領す 亡父の為に一寺建立せんことを謀る 身延山日朝上人奨るに瀧泉寺の廃跡を興すを以てす すなはち堂舎を造立して旧觀に復し亡

父の院号を取て寺に名つけて感応寺と改め以て一国の僧録とす 元和六年現在日陽上人南龍公の命に応じて当国に移り新町に住す 養珠夫人親しく勝地を察て限界を定め本堂坊舎を建立せられ感応寺と号す⁸⁾ 實に駿府感応寺と雙立の寺なり

と記されている。

隆昌寺は

小名東畑にあり当寺は元和六年若山新町に創建し其後数所々に移りて延宝六年此地に移るといふ⁹⁾

と記されている。

浄心寺は

元和九年甲州本遠寺日遠上人開基なり元和年中 南龍公例ならす御座しましける時養珠大夫人江戸より来り訪はせられ本遠寺主日遠に乞ひて弟子忠桂を若山に誘ひ加持せさせらるるに効驗ありて忽平癒せられければ同九年当寺を創造し忠桂を住職とし日遠を以て開祖とせられ寺領二十五石を賜ふ堂中安置する所の釈迦迦葉阿難の三像は南龍公寄付せらるという境内小山あり土俗呼ひて浄心寺山といふ¹⁰⁾

と記されている。頼宣の病氣の看病に江戸より参られた養珠院が日遠に頼み、弟子である忠桂に加持祈祷をして

もらい、効驗ありその報恩に忠桂を住職とし、日遠を開基としたことが確認できる。

久成寺は

裡町にあり元和九年藩士大久保大屋両氏の招に応じて藩州穴栗青蓮寺住職白僚当地に來たり車坂の辺に一字を建立し正保三年今の地を賜て移る⁽¹¹⁾

と記されている。

蓮経寺は

此寺旧真言宗根來寺の末にて蓮華谷にあり天正の兵火に鳥有となりしを正保年中養珠大夫人此地に再建せられ法華に改宗して大夫人の父君誠証院蓮華の法号を取て寺号とし畑及山林を寄付せらる⁽¹²⁾

と記されている。養珠院の父の法号をとって寺号としたことが確認できる。

誠証寺は

南龍公母君養珠大夫人膏沐の邑なりし故寛永十五年大夫人兩親の為に当村に一寺を創立して位牌所とせらる其の父君の法号を取りて寺号とし母君の法号を取りて山号とし智光山誠証寺と名く寺領十六石五斗並山林一箇所を寄付せらる⁽¹³⁾

と記されている。養珠院の兩親の為に一字を建立し兩親

の法号により山号寺号としたことが確認できる。

法華寺は

此寺旧興善寺といふ真言宗にて村の北高幡山の上にあり元和封初清水村に別館を築き給ひし時小亭を此山上に造らるるに因りて寺を今の地に移さる後享保年間改宗して法華宗となり寺号をも今の名に改めしなり境内に觀音堂あり此堂も旧は高幡山の上にありしを天和二年此所に移せりといふ⁽¹⁴⁾

と記されている。

報恩寺は

吹上岡山西ノ麓にあり寛文六丙午ノ歲 瑶林尊夫人按粧ありしかは遺骨を此寺に葬り奉る同十年 清溪公台計を得給ひて新に一寺創建ありて太夫人の菩提所とせらる白雲山報恩寺と号し法華独立の一本寺たり⁽¹⁵⁾

と記されている。

妙宣寺は

新堀川中橋の南にあり旧は那賀郡粉河村にあり寛文中粉河の東陽山に移し正徳二年養珠寺日禪此地に移せり

と記されている。

このように当初建立されていた地から転々と移転された寺院、他州の寺院を改宗せしめた寺院、廃寺を再興した寺院などが多いことが確認できた。これらも一つの特徴といえよう。

小 結

以上、和歌山県下に存在する全宗派寺院を挙げ日蓮教団を確認した。日蓮教団寺院を草創年代順に確認したところ、京都妙覚寺末が多く、大野本遠寺末に関しては養珠院が関係していることが確認できた。

まず簡単にはあるが、全体の概要をとらえてみた。今後の研究課題として近世における寺院について調査に赴き考察を加えたい。

註

- (1) 立正大学日蓮教学研究『日蓮教学研究紀要』第三十二号 平成十七年三月十日
- (2) 『紀伊続風土記』第一輯一〇八
- (3) 『紀伊続風土記』第一輯一四八
- (4) 『紀州日蓮宗風土記』一七三
- (5) 『紀伊続風土記』第一輯一〇一

- (6) 『紀伊続風土記』第一輯三二八
- (7) 『紀伊続風土記』第一輯一一六
- (8) 『紀伊続風土記』第一輯一一三
- (9) 『紀伊続風土記』第一輯七五八
- (10) 『紀伊続風土記』第一輯四六一
- (11) 『紀伊続風土記』第一輯一一五
- (12) 『紀伊続風土記』第一輯六一〇
- (13) 『紀伊続風土記』第一輯六〇九
- (14) 『紀伊続風土記』第一輯七五一
- (15) 『紀伊続風土記』第一輯一〇〇